

国語部会

～授業づくりとその実践～

国語部会研究推進委員

- 福岡県香春町立勾金小学校
教諭 宮成 努
- 熊本県南小国町立市原小学校
教諭 廣津 望都
- 宮崎県五ヶ瀬町立三ヶ所小学校
教諭 津奈木 考嗣

国語の知識？

他教科との違和感

知識を使いこなし、活用する児童の育成

他教科との違和感とは？

算数の知識

新しい計算の仕方・器具の使い方
図の描き方・表の見方・グラフ……

問題解決

これまで知らなかった知識の獲得による、合理的な問題解決を実感する

他教科との違和感とは？

国語の知識

国語の学力は、全ての学力の基礎である言語力に係る部分が多い



生活経験・学習経験による個人差
レディネスをそろえて授業ができない

協調学習の神髄

読書の
好きな子

話すのが
好きな子

作文の
好きな子

聞くのが
好きな子

様々な知識の集合によって
新たな知識を獲得する
学び合いによる確かな知識の獲得

国語科の研究の方向性として

知識と出会わせ、知識を獲得させる
協調学習の在り方を探る

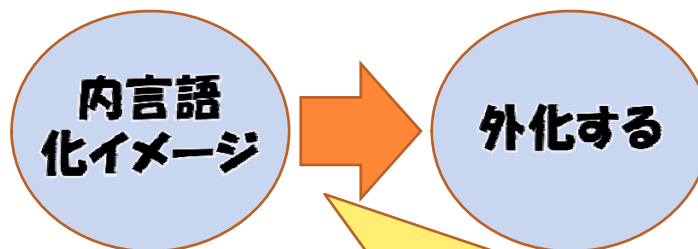


キーワードは
視点別学習



子どもの困り感

内言語化されたイメージを外化できない



この接点に国語の授業の工夫が必要
そこで、協調学習を機能させる！



本日紹介する実践

- ① **ジグソーで読書の世界を広げる**
第5学年 ～宮沢賢治作品を読む～
第6学年 ～椋鳩十作品を読む～
- ② **ジグソーで書く力を養う**
第6学年 ～意見分を書こう～
第5学年 ～表現技法を活用しよう～
- ③ **ジグソーで豊かな読みを**
第4学年 ～ごんぎつねを読む～



文学の授業

—「読書の世界を広げよう」—

文学の理解を深めることを ねらった教材

・「読書の世界を広げよう」

ある作者の複数の作品を読み、作品に共通する書き方の特色や、作者のものの見方や考え方にせまる。

・「ごんぎつね」

兵十の視点、ごんの視点からそれぞれ物語を読み進め、ふたつの読みを統合することでふたりの心情曲線が接近するタイミングを議論する。

新しい学びプロジェクト年次報告会

「読書の世界を広げよう」

①宮沢賢治作品を題材に（廣津望都教諭）

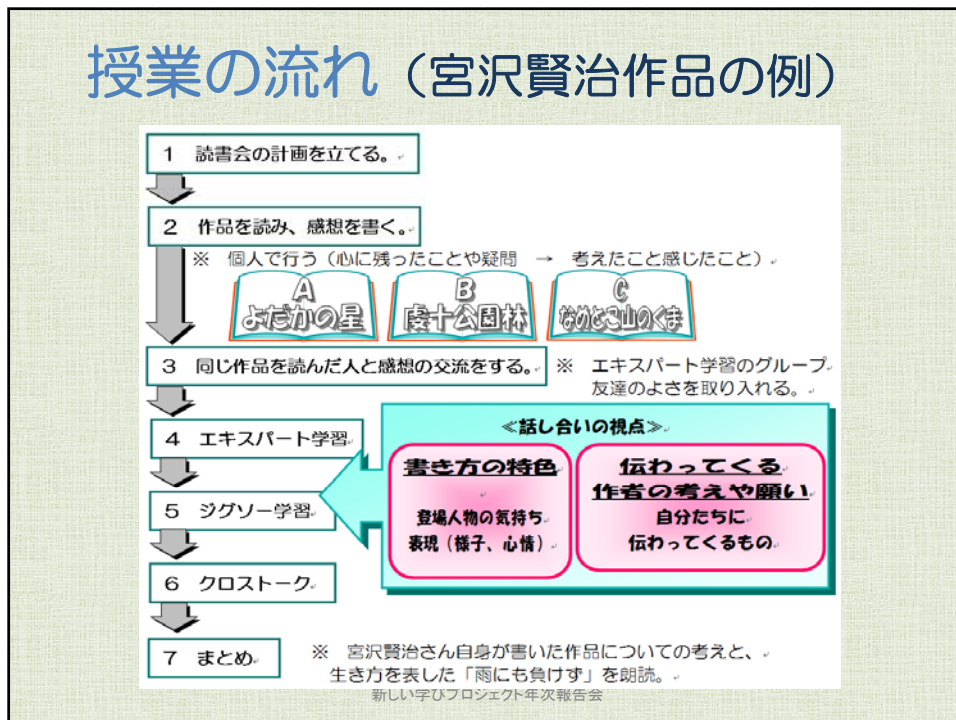
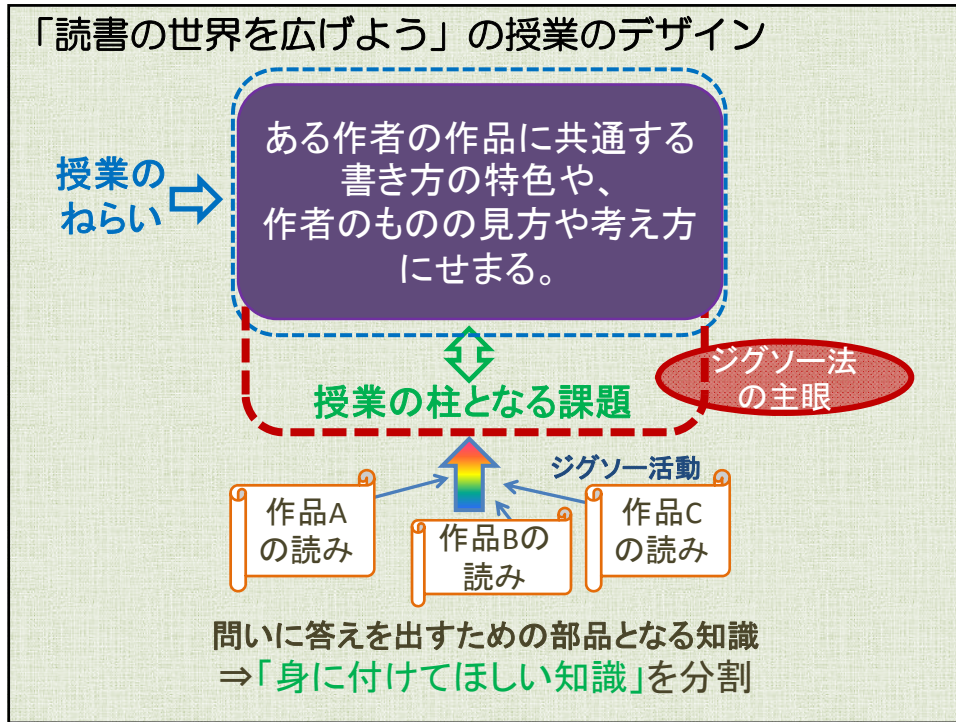
『よだかの星』 『虔十公園林』

『なめとこ山のくま』

②椋鳩十作品を題材に（宮成努教諭）

『栗野岳の主』 『月の輪グマ』 『片足の母スズメ』

新しい学びプロジェクト年次報告会



授業の様子（宮沢賢治作品での実践）



新しい学びプロジェクト年次報告会

授業の様子（椋鳩十作品での実践）

ジグソー活動



教室全体の様子



理解を言葉に



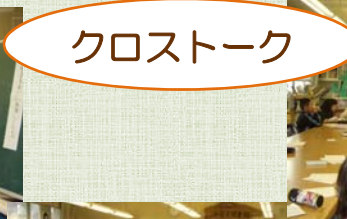
テキストに戻る

新しい学びプロジェクト年次報告会

授業の様子（椋鳩十作品での実践）



各グループの考えを掲示



クロストーク



まとめ



各グループの考えの交流

新しい学びプロジェクト年次報告会

子どもたちの考え エキスパート

宮沢賢治作品での実践より

文章表現の特徴	作者の考えや願い
○日常生活で使わないような言葉を使っている。 ○主人公をより目立たせるように書いている。 ○題名に主人公の名前が入っている。 ○色や物で表現してある場面が多い。	○たった一つの命を大切にしたいという願いが伝わってきた。 ○見た目で判断していじめはいけないという願いが伝わってきた。

新しい学びプロジェクト年次報告会

子どもたちの考え エキスパート

椋鳩十作品での実践より

文章表現の特徴	登場人物の気持ち	作者の考えや願い
<ul style="list-style-type: none"> ○動物が登場 ○比ゆできれいに感じさせる。 ○音や色で表現している。 ○結局人間は動物をつかまえられない。 ○季節が秋 	<ul style="list-style-type: none"> ○栗野岳の主は家族を守る。長年の勤に自信がある。 ○『月の輪グマ』母グマの子どもを思う気持ち。 	<ul style="list-style-type: none"> ○勇かんで仲間思いの人になってほしい。 ○人間と動物が共生できる世界をつくってほしい。 ○自然を簡単に邪魔してはいけない。

新しい学びプロジェクト年次報告会

授業の最後での子どもたちの考え

『宮澤作品の書き方の特徴と考えや願い』



新しい学びプロジェクト年次報告会

授業の最後でのももたちの考え

『椋鳩十作品の書き方の特徴と考えや願い』



新しい学びプロジェクト年次報告会

授業後のももたちの感想

- 1人で学習をするよりか、3人や4人でする方が速く進んで、ジグソー学習でまとめて楽しかったです。
- ジグソー学習をして初発の感想をもう一度見たときに、ジグソー学習をしたら考えが深まっていたので、もう一度同じ作品を読んでみたいなと思いました。
- 同じ作者の作品を比べながら読んだり、共通点を見つけたりするのを初めてしたので楽しかった。

新しい学びプロジェクト年次報告会

授業後の教師の感想（廣津実践）

- 個別支援を要する子どもも、自分の考えを積極的に話していた。また、課題に沿って確実に話し合いを進めることができていた。
- いきついてほしい認識が明らかになっているとき、シグソー法は効果的であると考え。今回の学習は宮沢賢治の作品観が確立されていたので、クロストークをしたあとのいわゆる「おとしどころ」をつくることができ、そこに自分たちの話し合いによって近づけたという達成感を味わうことができたのではないかと考える。

新しい学びプロジェクト年次報告会

授業後の教師の感想（宮成実践）

- 教師が一斉学習で指導していくのではなく、子どもたちが自分たちの考えをもとに話し合いで課題に迫っていくことができおり、「自分たちで考えられた！」というような『成就感』を味わっていた。
- 子どもたち一人一人の作品のとらえ方や考えの違いがあることで、共感が生まれたり、読み方に深まりができたりした。

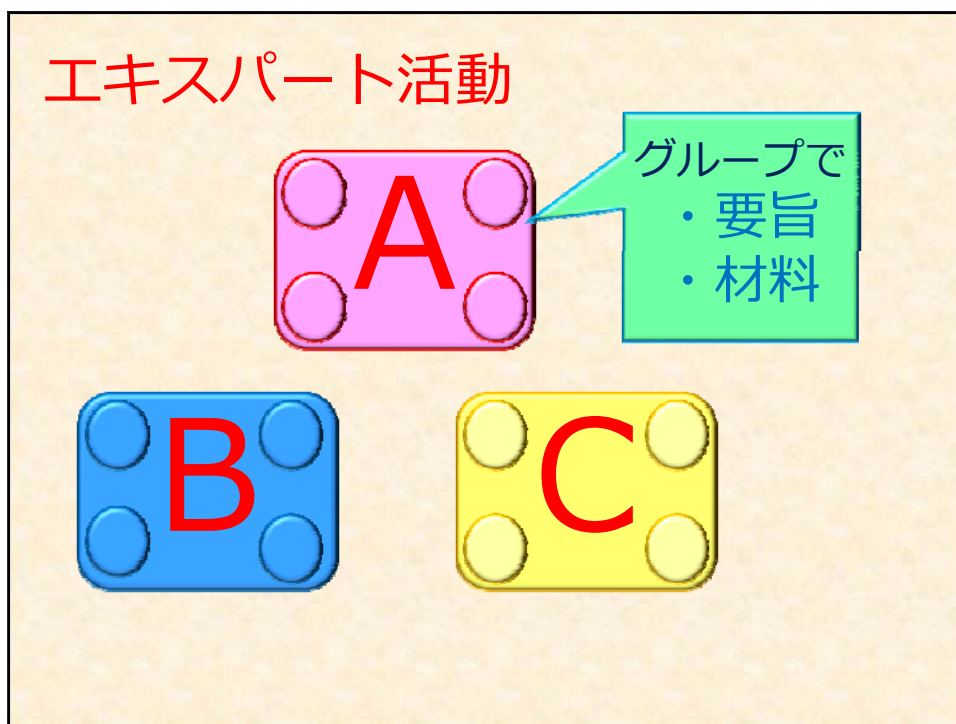
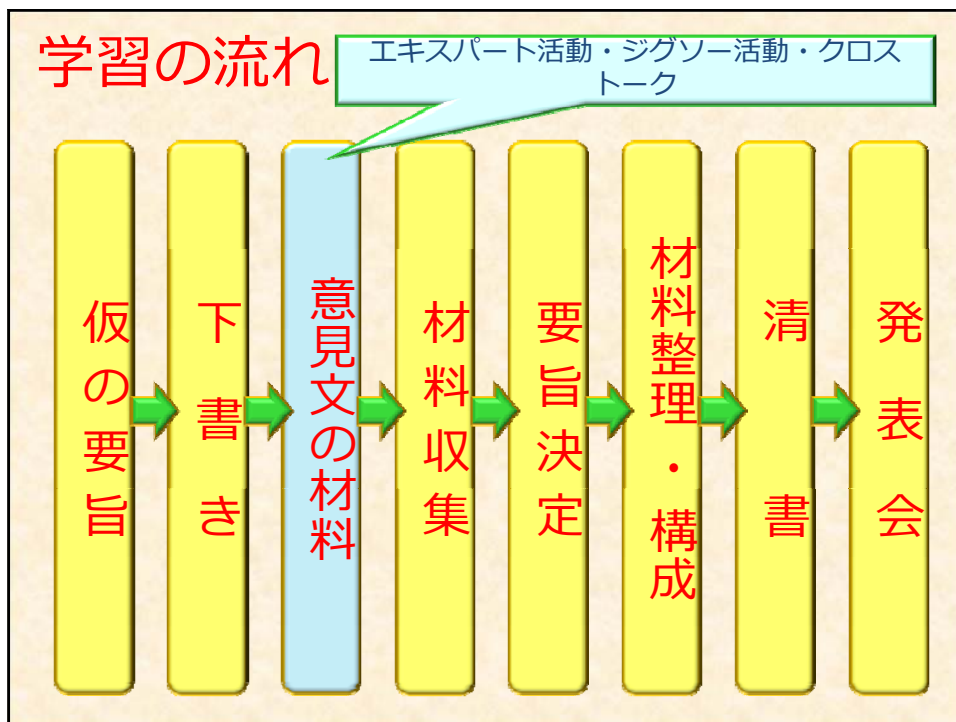
新しい学びプロジェクト年次報告会

意見文を書こう

小学校 6年生

単元の目標

- 自分が発信したいテーマを決め、自分が伝えたいことや考えたことを進んで書こうとすることができる。
- 目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理することができる。
- 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えることができる。



意見文 A

反対意見・体験談の入った文

意見文 B

データ・具体例の入った文

意見文 C

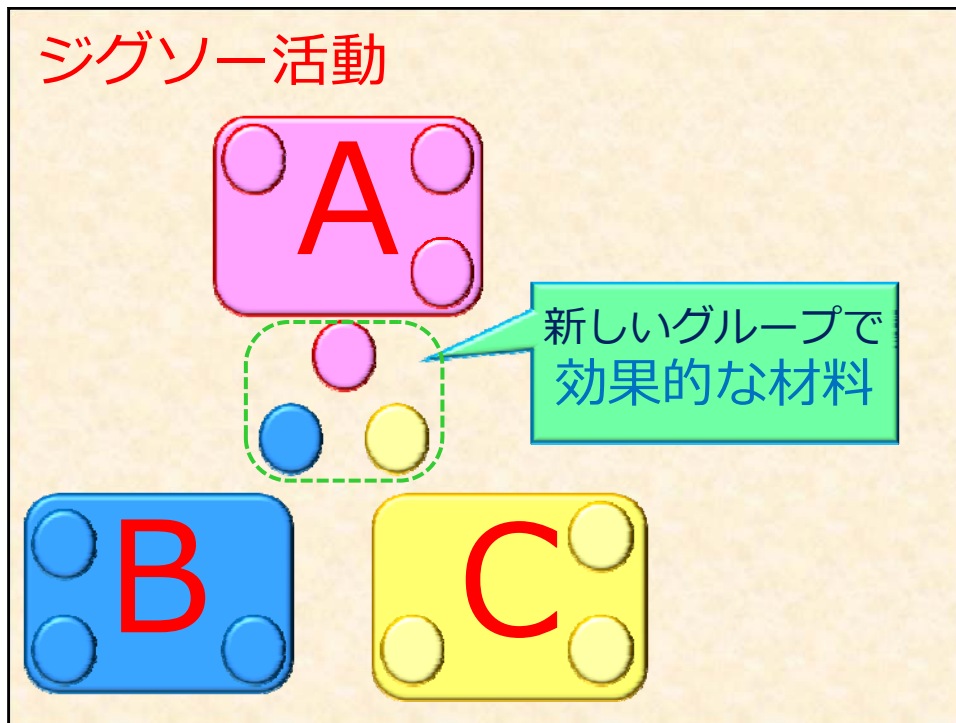
体験談・インタビューの入った文



意見文を読み、
要旨について交流

材料についての
話し合い







班で考えた材料の
発表準備

全体交流

課題の材料を考える。


					マンガのよさを伝えたい
--	--	--	--	--	-------------



材料の話し合い

クロストーク

全体交流



材料の付け加え

実践を通して・・・

- どんな材料を取り入れたらいいのか分からなかった児童にとって、材料の視野が広がった。
- クラスの友だちにアンケートをとったり、体験談を取り入れたり、自分の書いていたメモに材料の付け加えができた。
- △ 自分の伝えたいことにあわせて、集めた材料の取舍選択や効果的な活用の仕方などの指導が不十分だった。
- △ ジグソー活動での課題文で『マンガ』というテーマが子どもたちにとって身近すぎたため、その前に話し合った材料の活用が少なかった。

物語作りの表現の工夫

5年生



単元目標

写真から想像を広げ、構成や表現を工夫して物語を書き、交流する。

中心的なねらい

効果を考えて表現を工夫することができる。

シグソー法の活用

友達の作品を読んで、表現のよさを見つけたり、よりよくなる助言をしたりすることができる。

新しい学びプロジェクト年次報告会

「物語作りの表現の工夫」の授業のデザイン

授業のねらい

効果を考えて表現を工夫することができる。

学んだ表現の工夫を活用して、実際に物語を書く

表現の工夫をして、伝えたいことが読者に伝わる表現豊かな文章を書くにはどうすればよいか。

答えを出してほしい課題

① 比喻による表現の工夫とその効果

② 擬人法による表現の工夫とその効果

エキスパートA

エキスパートB


エキスパートC

エキスパートA


エキスパートB

エキスパートC


授業の様子



みんなの発見をあわせるとどうなるだろう
(ジグソー活動)



この文にはどんな工夫があるのかな
(エキスパート活動)



僕の考えたことは...
(クロストーク)

新しい学びプロジェクト年次報告会

比喩による表現の工夫とその効果(児童の記入例)

7月20日 木曜日 五年(名前)

物語を作ろう エキスパート資料 (ひー)

☆表現を工夫するとどんな効果があるのだろう。

一次の二つの文を読み比べよう。
(あまみきみ) 「山ねて、おこわり」

A ほそい一本道にできました。両がわには、見わたすかぎり、金いろの稲のほがゆれていきます。木の葉が、赤やきいろやしゆいろにそまつた林にはいりました。

B ほそい一本道にできました。両がわには、見わたすかぎり、金いろの稲のほが、波のようにゆれています。木の葉が、赤やきいろやしゆいろにそまつたじじのような林にはいりました。

二日の文をもう一度読んで、両文が工夫されている部分にサインを引きましょう。また、どんな工夫がされているか、書きを教えてください。

三 二で考えた工夫は、どんな効果があるでしょうか、書きを書きましょう。

想像するときにくわしくおもい出しがべらべらその時のきらいいよなどかき伝わる。

想像できる

樟子を波のまじりのような具体的な表現で、どんな林に入だか分かる。何かをまたとせている。

新しい学びプロジェクト年次報告会

擬人法による表現の工夫とその効果(児童の記入例)

1月20日 木曜日 五年 名前()

物語を作ろう エキスパート資料 (ぎょーA)

☆表現を工夫するとどんな効果があるのだろう。

一次の二つの文を読み比べよう。

金田田山田 「おじいれのぼうけん」※※※※※※※※※※※※

A するととつぜん、ねずみはあさんの声から空から落ちてきました。早上げる。ピルの上に、ねずみはあさんがこしかけていました。二人はもともと方へ走り出して気づきました。道の曲側の水鏡とかが光っているのです。

B するととつぜん、ねずみはあさんの声から空から落ちてきました。「かっふる。わしはここにまってるぞ。」早上げる。ピルの上に、ねずみはあさんがこしかけていました。二人はもともと方へ走り出して気づきました。道の曲側の水鏡とかが光っているのです。また方へ走り出して気づきました。道の曲側の水鏡とかが光っているのです。

二 日の文を一つ一度読んで、表現が工夫されている部分にサインラインを引きましょう。また、どんな工夫がされているでしょう。書きを書きましょう。

三 二で考えた工夫は、どんな効果があるでしょう。書きを書きましょう。

「おじいれのぼうけん」※※※※※※※※※※※※

水鏡とかが光っているの

読書にドキドキするしこわいと思わせる

新しい学びプロジェクト年次報告会

ジグソーグループの活動(児童の記入例)

1月20日 木曜日 五年 名前()

物語を作ろう ジグソー活動 (ぎょーA)

☆表現を工夫するとどんな効果があるのだろう。

一 他のグループの考えを聞いて、知っていることや納得したことを書き添えておきましょう。

グループ「B」 発表した人

グループ「A」 発表した人

「かっふる。わしはここにまってるぞ。」

二 どんな表現の工夫で、どんな効果があるのか、グループで考えをまとめてみましょう。

表現の工夫

「おじいれのぼうけん」※※※※※※※※※※※※

同じ意味でもっと言葉もろこい

効果

三 グループの考えがまとまったら、表現の工夫の効果をかいて、文を書きかえてみましょう。

新しい学びプロジェクト年次報告会

表現の工夫の活用



わたしの作った物語、
どうしたらもっと素敵になるかな



比喩や擬人法を使って、
この文にどんな工夫ができるだろう

新しい学びプロジェクト年次報告会

作文の工夫例

表現を工夫して書きう物語を作ろう
五年名前

アルは鳥の声が聞こえて目さざました。
「そうか・・・そう春かし。」
アルはとて山おくの川の近くに二人でぼつ
んと花をまんかいたさかせて立っていた。
「ヒイヒイ・・・ヒイヒイ・・・い。」
何か悲しそうな泣き声がかきこえた。アルは心
と自分のまわりの様を見回した。すると青い
鳥がとまっていた。アルは声をかけてみた。
「どうしたんだい？」

表現を工夫して書きう物語を作ろう
五年名前

「いわれました。けどさる言はあざらめずに
す。とまる男お兄さんのかん痛し。でもこ
る言ははもうだめだと思ひ。せどうにけんささ
これたような感じがしました。下でもやっぱりあ
さらめずかん痛しました。」

新しい学びプロジェクト年次報告会

授業後の教師の感想 (良かった点)

- 研究授業当日の様子はあまり活発ではなかったが、授業後、実際に物語を書く際に、表現の工夫や効果について振り返ったところ、学習内容をよく把握していた。書いた物語を友達と読み合う活動では、友達が書いた文章の表現の工夫や効果についてよさを見つけたり、その効果について伝えたりする姿が見られた。
- 工夫された文と工夫を除いた文を比較し、「どんな工夫があるのか?」、「どんな効果があるのか?」について考えることは意義があると感じた。

新しい学びプロジェクト年次報告会

授業後の教師の感想 (課題)

- 課題が抽象的だったためか、まず、自分の考えをもつことが難しく、話し合いはあまり活性化しなかった。
- それぞれの学習プリントに適切なことは書かれていたが、それを合わせて表現の効果まとめると、「わかりやすい」などに集約されてしまうグループが多かった。

課題

子どもたちの学び合いを生み出すためには、資料の難易度、説明の仕方、意欲を高める課題や活動の設定、目的意識の持たせ方などを改善する必要がある。

新しい学びプロジェクト年次報告会

改善案一次の実践に向けてー

- ①何の工夫もない文章を提示し、「なんだかおもしろくないなあ。」と、思わせておき、「どうすればいいかな？」という課題をもたせる。
- ②エキスパート学習で表現の工夫とその効果について話し合う。
- ③ジグソー学習で、文を書きかえる(推敲)のにエキスパート学習で学んできたそれぞれの技法を活用する活動をメインに置く。
(説明をするときには、「この文章が、このような工夫をすると、こんなふうにかわります。」という話し方がよさそう。)
- ④クロストークで、文章がどう変わったかを出し合い、「表現の工夫のよさ」を話し合う。

新しい学びプロジェクト年次報告会

ジグソーで豊かな読みを広げよう！

第4学年 「ごんぎつね」

単元目標

叙述をもとに、登場人物の心情を読み取り、それぞれの関係を捉える。

学習指導要領での位置付け

【中学年・C読むこと】

- ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基にして読むこと。
- オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気付くこと。

授業の中での協調学習の位置づけ

当初の予定

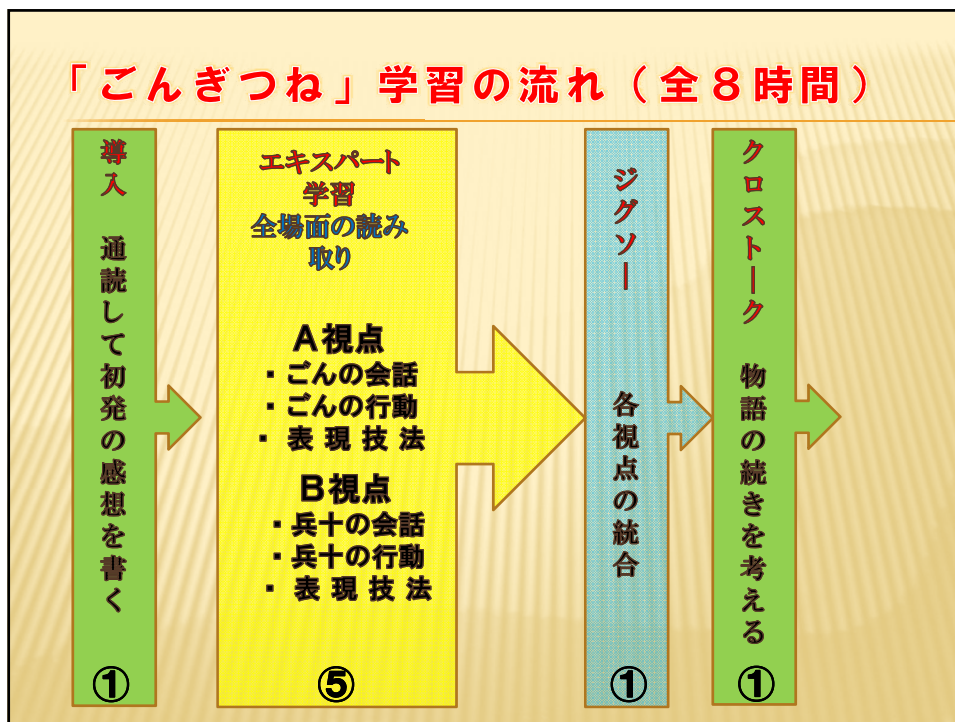
通常の一斉指導を第1場面～第5場面まで進め、クライマックスのある第6場面を協調学習で行う。

課題点

第5場面までの読解で、児童は登場人物の心情や互いの関係をイメージし、毎時間、毎時間の学習を完結してしまい、協調が起きにくい。

改善点

そこで、単元全体を大きな協調学習と捉え直し単元計画を立てた。



エキスパート学習



エキスパート学習の流れ

- ① ワークシートに抜粋された叙述について、まず個人で登場人物の心情を考える。
- ② 同じグループで意見を交換する。
- ③ 同じ視点だが、別の観点で話し合った友達と意見の交換をする。

なぜ、ごんはあんなことをしたんだろうね？
ぼくは、こう思うけどね！

エキスパート学習（意見のすり合わせ）

同じ視点のエキスパートでも、国語の場合
感じ方は人それぞれ



しかし、そこには多少の妥当性、共通性が見いだせなければ、叙述に即して読んだとは言えない。



ある種の制約の中に、多様性を生み出させる。
（今回は**心情曲線**に整理させた。）

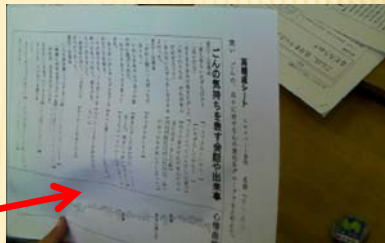


付箋紙で心情曲線を作成する。
話し合いで、必要のない物は剥がしていく。

ジグソー学習

ここで、初めて二つの登場人物の心情が交流する。

- ① エキスパート学習の付箋で整理された心情曲線を1枚のワークシートにまとめる。
- ② ごん、兵十のそれぞれの心情を出し合い、両者の気持ちが近づくのか話し合う。
- ③ 最終的なグループなりの結論を決定する。



クロストーク（心情変化を比較する）

最終的な結論を心情曲線で確認すると？

↓
物語のクライマックス場面で、捉え方に違いがあることに気付く。

↓
特に、ごんに対する兵十の思いは、様々であることが分かる。

↓
違いの原因は何か？設定を少し変えて、物語の続きを考えて見る。



ごんと兵十は分かりあえたのか？

分かり合えた

VS

分かり合えなかった

学習の成果と課題

【成果】

- 登場人物の心情を、完全に二分した形態学習した結果、最後のクロストークまで、自分たちの読み取った心情を大切にしながら、思考し続けていた。
- 他者との意見の違いを認めながらも、自分の考えに根拠を持ちながら説明する様子が多く見られるようになった。

【課題】

- ジグソーによる心情のすり合わせ場面では、AB共通の視点提示をしなければ、話し合いが活性化しないので、再度指導法を改善する必要がある。
- メモを取るスキルは、協調学習においては必要十分条件である。

国語部会

研究の成果と課題

【成果】

- 全ての実践において、児童の感想が肯定的である。
 - ・ 児童の主体的活動中心の学習が展開される。
 - ・ 意見の交流による様々な知識の獲得が期待できる。
 - ・ 自らの責任で学びを進める緊張感と達成感がある。
- 他教科でも同様、表現力を育む対話型の学習である。
 - ・ 聞く→(比較・共感・批判)→説明する→反応(評価)
- 学習の到着点が明確なものであれば、あるほど協調学習の効果は著しいことが分かった。
 - ・ 何でも「よし」ではなく、ある程度の納得感、共有感を議論によって導き出す仕掛けが設定されている。

【課題】

- 子どもたちの学び合いの中で、協調を起こさせるには、課題の難易度設定が重要であるが、その設定が容易ではない。
 - ・ 抽象的であったり、易し過ぎたり、難解すぎると話し合いは活性化しない。
- 他の教科と違い、学んだ知識がすぐに活用できるものではない。表現の技法、文章の構成法、読解法などを学んだとしても、継続的・発展的な学習経験が、その知識を有効なものへと変化させていく。
 - ・ 1回の協調学習で作文が書けるようになったり、心情変化を読み取れるようにはならない。
- 国語科の協調学習の可能性は見えてきたが、どのような学習場面で有効なのか明確ではない。
- ジグソーとクロストークのつながりの部分でつまづくことが多い。クロストークの設定の仕方は今後の研究での大きな課題である。



ご清聴ありがとうございました。

